



じっくりと集中して
積んでいますね

子「できたよ!」
保「たかいのできたね」



エピソード

A 児(1歳11か月)が積み木を持って歩いていたので、保育者は A 児に声をかけ、積み木を積んで見せました。A 児は保育者の積む様子に興味をもち側までやってきました。保育者が♪「つみきをつみましよう♪」と歌いながら1つずつ丁寧にゆっくり積んでみると、A 児は手に持っていた積み木を保育者が積んだ積み木の上に置き、保育者の顔を見ました。保育者が「上手に積めたね」と声をかけると、A 児は箱に入った積み木を手に取り積み始めました。保育者と一緒に1つずつ積むと、途中で崩れてしまい「あー」と残念そうな声を出しています。保育者が「もう一回積もうか」と声をかけると、ニコツと笑い「うん」とうなずいてまた積み、前回より高く積めると目を丸くして、嬉しそうに保育者の顔を見てくれていました。その後は積み木を積む事を繰り返し楽しみ、高く積んだ時は拍手をして保育者と笑顔で喜びあっていました。

保育者の思い

- ・積み木の遊び方を保育者と一緒に積むことで、知って欲しいと思いました。
- ・ゆっくり置かないと、すぐに崩れてしまうので、ゆっくり落ち着いて置けるように言葉で知らせて、積めた時の嬉しさを感じて欲しいとおもいます。
- ・遊びの中での自分で出来た喜びや保育者と一緒にする楽しさを受け止め遊びへの意欲がもてるようにしたいです。

子どもの育ちや学び

- ・手指をしっかりと使って遊ぶことで、ものの感触を味わったり、操作性を育んだりすることにつながります。
- ・自分の好きなことを満足いくまで遊ぶことで、遊びの楽しさや満足感を得ると共に、集中する力が育まれていきます。

家庭だったら・・・

身近な大人の人に側で見守ってもらえる安心感が子どもの意欲や満足感に繋がっていくと思います。お家でも身近なものに触れながら、その感触を言葉で伝えたり、一緒に味わったりする機会がもてると良いですね。手先をたくさんつかって遊んでみましょう。